

## 山梨県総合計画審議会第1回地域産業元気部会 会議録

1 日 時 平成28年7月11日(月) 午後2時～午後4時

2 場 所 古名屋ホテル「ホアヒン」

### 3 出席者

・ 委 員 (50音順、敬称略)

荻野 勇夫	金丸 康信	稀代 康正	小林 寛樹	佐藤 裕子
關本 得郎	辻 一幸	中込 健	西鍋 早葵	古屋 千鶴
宮下 珠樹	宮本 実佳	吉田 均		

・ 県 側

総合政策部長 森林環境部長 林務長 産業労働部長 農政部長  
県民生活部次長 観光部次長 県土整備部都市計画課長  
警察本部生活安全部地域課長  
(事務局：政策企画課) 政策企画課長 政策主幹

4 傍聴者等の数 なし

### 5 会議次第

- (1) 開会
- (2) 部会長あいさつ
- (3) 総合政策部長あいさつ
- (4) 議事
- (5) 閉会

### 6 会議に付した議題(すべて公開)

- (1) ダイナミックやまなし総合計画について
- (2) ダイナミック・アクション2016について
- (3) その他

### 7 議事の概要

- (1) 議題1及び2について、資料により事務局及び部局長から説明し、次のとおり意見交換を行った。

#### (委員)

ダイナミックやまなし総合計画、これ関連した内容、同時に「ダイナミック・アクション2016重点項目」と本年度の詳細について、詳細に説明があった。

これについて後ほど、皆さんからご意見をいただきたいが、まず最初にこの2つについて基本的な質問をお願いしたい。

(委員)

先ほど各部長からそれぞれ重点項目につきまして説明があったが、内容が盛りだくさんだったのでよく分からない部分も多いが、各部門で1つこれがポイントだということをお願いしたいと思うがいかがか。

(委員)

全体の話になってしまうので、それは次の項目の質問にさせていただきたい。ここでは何か具体的な質問のみにさせていただきたいが何かあるか。

無いようなので私のほうから1点だけ

森林環境部で育水という概念について、私自身不勉強で大変申し訳ないが、育水という言葉が出たが、どのような概念なのか。水を育てるということがよく意味が分からないので説明いただけるとありがたい。

(森林環境部長)

やまなし「水」ブランド戦略の中で、ただ単に山梨の豊かで良質な水を売り込んでいこうというだけではPRというか押しが弱いということで、山梨では県有林をはじめ、森林資源が豊富で、森林を整備し水源の涵養を行っているので、「その水を育て、保全された環境の中で水が絶えず循環をし、豊かな水を将来に向かって生かしていくことができる」という視点で、水を育てて、ブランド化し、PRに結び付けていくということで「育水」という概念を使って宣伝をしている。

(委員)

ダイナミックやまなし総合計画の時間的な今後の予定のことを大まかに聞かせていただきたい。本日の議題2は、アクションプランの2015年から2019年までの今年度の計画ということで理解してよいのか。県の取り組む内容ということで理解してよいかという点と、ダイナミックやまなし総合計画において、長期的な展望で目指すべき地域社会について、今世紀後半頃を目標にしているようであるが、期待される本県の将来展望というのはいかのように解釈したらよいか。

(総合政策部長)

ダイナミック・アクション2016については、この5年間でやるアクションの中で、今年度、こういったスケジュールで成果を上げていくという今年度の取り組みを示させていただいている。

長期的な取り組み、将来どうなるかということについては、ダイナミックやまなし総合計画の69ページの「期待される本県の将来展望」で示しているように、リニア開通後のそれぞれの地域がどうなっているかというところであり、「ダイナミックやまなしプロジェクト」の取り組みを通じて、本県が、結婚、出産、子育てあるいは教育、雇用など安定した人口構造の維持に必要な環境整備というものを進め、国内外から本県を訪れる多くの人たちが活発な交流活動を広げ、拡大していくことと相まって、発展し続ける山梨ということを目指しており、そのためのまずこの5年間の取り組みをしていくというような組み立てとなっている。

(委員)

そうすると2030年を目標というのは、あくまでもあと11年間でリニアの東京 - 名古屋間  
が完成する、それに照準を合わせてここに2030年という位置付けをしているという考えで  
よいのか。

(総合政策部長)

リニア開通ということも1つポイントとしている。

(委員)

先ほど委員からの意見で、それぞれの部門でこれがポイントという点について、これ  
までの説明では様々な内容があり過ぎて絞れないということで、説明の中でもう少しポ  
イントを絞ってという内容だが、これについて1分程度で説明は可能か。

(総合政策部長)

基本的には今年の重点項目として、各部局3から5項目を取り組んでいくということで説  
明を行ったこの項目が正しく今後、今年度取り組んでいこうというものである。

(委員)

まず、私はジュエリー関連ということで、県でジュエリーPRビデオの作成を進めていた  
だき非常に感謝している。現在進めていただいている中で、年内に上映回数10回を目標  
との記載があるが、我々としても実際にどういった場面で使わせていただけるかという  
点でいろいろ検討している。そこで、上映場所について、我々もいろいろ考えている中  
で、海外向けの香港など、北京語と英語と日本語で作っていただいているということで、  
県のほうでも上映場所についてできれば様々な支援をしていただければと考えている。

続いて観光面で、ジュエリーツーリズムという言葉もあると思うが、観光客の誘致の中  
で、1つ富裕層をターゲットに絞った企画みたいなものがあると面白いと思う。果樹、ジ  
ュエリー、ワインそして織物に富士山があって山・湖があるというこういった点が海外の  
方には非常に魅力ある所だと思う。それを一般の方は勿論のこと、富裕層に対してのPR  
もあったらよいと思う。

3点目として、Wi-Fi環境についてはかなり進んでいるということでよいのか。

最後に、観光部と森林環境部でちょっと似たようなところがあるが、その辺のお互いの  
連携というのは進んでいるのか。

(産業労働部長)

1点目の上映回数について、まず何を目標にするかという点で非常に悩んだ。先ほど説  
明したようにYou Tubeにも掲載するので、正直なところ県の作成するものはあまり面白  
みもないことで閲覧回数も少ないことから、どれだけ見られたかということを目標とす  
るという話もあったが、結果的にこの数字とした。先日、PR映像制作のコンペが終了し、  
現在、制作に入っており、よい物を作っていくためにも、組合とも相談する中で制作を  
進めていきたい。まず、短縮版を制作し、それを見ていただいた上で、しっかりした  
ものを作るということで、大体年内ぐらい掛けてじっくり作りたいと思う。そんなこと  
から、ジュエリー展等で上映をしたいと思っており、理事長の意見のように、香港ある  
いは上海、そして

roomsなどの展示会もあり、国際宝飾展も東京に開かれている。そういったものを数え上げると大体10ぐらいはやれると思っている。それでそういう数字を上げさせてもらった。

#### (観光部次長)

富裕層をターゲットにした、例えばジュエリー・ツーリズム等々につきましては、ここには細かく書いていないが、39ページの重点項目3「戦略的な観光プロモーション」の中で、ターゲット対象を幅広く考えている。やまなし観光推進機構の旅行業の商品として、例えば中国の人たちをターゲットにしたウェディング・ツーリズムの開発、内容としては、花嫁姿になって写真を撮り、旅行に行ってもらおうとか、それに伴いジュエリーも買っていただいたり、記念のジュエリーを作っていたりというようなどころなど少しずつ富裕層をターゲットにした旅行商品の構築も考えている。

森林環境部や、農政部、教育委員会との連携について、観光産業は山梨県の基幹産業の第2位に位置をしており、基本的に稼ぐ力、働く魅力を高めるための「観光産業活性化計画」、これに基づく取り組みが観光部の主要項目の中心になっているところであり、その中で、例えば冬の観光が弱いという時には、冬季国体も2年後に開催されるので、それとの連携、また水や農産物などの連携も深めていくことなど、今、観光は夏のトップシーズンを迎えており、部局間連携を強烈に実施をしながら様々な分野で話し合いを行い、トップセールスや、今後の戦略づくりなどに協力をしてもらっている。

#### (委員)

観光部の重点項目におもてなし推進の具体的な取り組み内容における、旅行者の安全性について、観光客の安心、防災力を高めるために観光産業におけるユニバーサルデザインの推進が必要だと考えている。現在、アジアや東南アジア圏からの観光客が増えている中で、多言語化も必要だが限界があると考えている。そこで誰でもが判りやすいピクトグラムを作成していくことが重要だと考えている。公的機関や観光施設、地域産業を超え、連携してピクトグラムを作成していったほうがよいと考えている。また、災害が起こったことを想定して避難所等が判りやすいようなピクトグラムも必要ではないかと考えている。いつ、何が起こっても観光客の人も地域住民の人も安心できる地域づくり、仕組みづくりは、ユニバーサルデザインを推進していくことで実現できると考えている。

また、災害情報や避難所等情報をネット環境がなくても見ることができるアプリケーションの作成も必要だと考えている。例えば、現在甲府市の観光施設や飲食店などの情報を多言語で発信している無料アプリケーション「ふらっと案内」について、私の所属するゼミでは、その「ふらっと案内」の情報の更新入力ができ、そのためのノウハウもある。そういったものを観光防災政策の一部として活用できるのではないかと考えている。

#### (観光部次長)

38ページ重点項目2の「おもてなしの推進」に記載のとおり、今年「マンガで知るやまなし」を作成する予定である。その中で当然ユニバーサルデザインのことにも触れる予定にはなっていると思うので、非常にそこは大事なところだと認識をしている。

それと先ほどの意見であったWi-Fiの箇所数については、今のところ県内で2,500箇所を目標にしており、現在は2,000箇所に届くような箇所にWi-Fiが設置されている。

(委員)

我が家ではフルーツ農園を営んでおり、父母が農園の運営、兄が生産、私が農産物の加工と農業と観光という視点から農産物を使って観光で来られる皆さんが作って食べる、また収穫物がある時に収穫と合わせて作って食べるというような企画でクッキングスタジオを運営している。また、笛吹市の温泉街とコラボして、温泉の魅力と農業の魅力というのを発信するようなツアーも現在、企画もしている。畑の活用として農業と観光というのはこれからニーズが出てくると感じている。

45ページについて、我が家にも遊休農地の利用を依頼がよく来るが、滞在型市民農園の開設、県外者の利活用の促進ということでリンケージ農園という言葉が出てきまして、具体的にこれはどのようなことなのか教えていただきたい。

(農政部長)

リンケージ農園は大きく分けて2つあり、1つは今空いているぶどう棚をモデル農園的に外部の人に市民農園として使ってもらおうというものである。普通市民農園というと畑に何か野菜を作るといふものが多いと思うが、山梨らしさを出すため、ぶどう棚を使って、もちろんブドウでもよいが他の作物でも作れる農園をまず作っていく。

もう1つは、お試し住宅、空き家と連携した市民農園としてのものである。現在、こうした農園としては、クラインガルテンというものが非常に人気となっているが、実はこれを作るには非常にお金がかかるという事情もある。一方で現在、山梨県は空き家が非常に多い、耕作放棄地も多いということで、その空き家と市民農園をセットでお貸ししようというものである。そうすればコストも掛けずに進められる。例えば、週末に空き家に来ていただき、市民農園もやってもらうという形の市民農園を開設していこうというものである。

(委員)

織物産業は現在、県内産業の中でジュエリー、ワインに続いて取り上げてもらっているが、一軒一軒は非常に小さな家内工業であり、苦しい状況は何十年も続いている。そのような中でも、県でもよく認知されている「ヤマナシハタオリトラベル」というグループを作り、商品のブランド化、全国への発信、出張・販売を行い、全国的に知名度も上がってきており、小さな一軒一軒が集結してがんばっているところである。また、毎年県外からデザイナー志望や機織り職人志望で入ってくる移住者も少しずつ増えてきている印象がある。

34ページの具体的な取り組み内容の の部分について、現在、フランスのトレンドユニオンという会社と提携して、素材のトレンドブックの制作が始まっているところであるが、これについて今後どのような展開をしていくのか。今年、素材の打ち合わせがあり、その後どのような展開の予定であるか教えていただきたい。

(産業労働部長)

トレンドユニオンのリー・エデルコートさんという一番トップの方が確か3月にお見えになり各社を回られ、生地見本をかなり持っていかれたというふうに聞いている。恐らくその中から今後3年ぐらい先を見越して、どのような風合いのものが世界のファッション

界をリードするかということ、その素材を基に検討されていると聞いている。その案が出たところでまた皆さんと具体的にこういうものができるかといった相談をされると思う。打ち合わせを重ねる中で、年内あるいは年明け、いずれにしても年度内には実際の生地にして見本にしたいと思っている。本の形になって出るのは確か年に2回発行と聞いており、その発行の時期のタイミングや出来具合にもよるが、少なくともそういう形で本にできればと思う。普通は厚いトレンドブックという本の中の何ページかの特集になるが、非常に気に入ってもらったので、場合によっては山梨だけで特集にした冊子を作ってもいいというようなありがたいお話も聞いており、私も期待しているところである。

(委員)

エデルコートさんはTIME誌で2003年に世界で最も影響ある100人に選ばれたオランダ人婦人で、初めて3月にいらした際、降っていた雨が上がり富士山がものすごくよく見え大変感動されていた。インスピレーションを受けてスピリチュアルな感覚で世界の動きを見ている方なので、富士山にそういうスピリチュアルエネルギーを感じて、ここにリー・エデルコートジャパンを作りたいとまで仰っていたので、ぜひ支援をお願いしたいと思う。

別件で県産材の話があったが、建築関係の友人から県産材を使えという話があるとかという話は聞いたことがあり、実は県産材をかうとすごく高いので全然魅力はないとのことであったが、先程の説明で県産材の需要拡大推進という話があったので、需要拡大する意味とか、どういう利点があるとか、その辺を教えていただきたい。

(林務長)

県産材が高いとか魅力がないということで非常に残念である。そういった実態ももしかしたらあるのかもしれない。県産材振興の意味にどういったことがあるのかというご質問かと思う。現在、少子高齢化で、経済活動の縮小、人口減も進む中で、山梨は森林・山に囲まれた県で、県土の78%が森林であり、そこにある木はおそらく有史最大の蓄積量というか、相当な量に育ってきている。これをいかに県内の仕事、雇用や収入につなげていくかということで、できるだけ経済的に価値を出していこうということで、そのためにはやはり木が上手に使われていく環境を作っていかなければいけないということである。その1つの出口として、ヨーロッパでは木材だけで4階建て、5階建て、6階建てのような建物を作るCLT工法といった使われ方もしている。現在の日本の使い方の延長線とはまったく違う新しい使い方であるが、そういった技術開発やコストダウンをすることにより、様々な可能性が見えている。それを進めて、少しでも利益を県内に波及したいという考え方で県産材を振興している。

(委員)

山梨市で旅館の若女将をしている。当館は客室数が10室という小さな旅館で、県内には多数ある宿や温泉の中では末端のほうになると思う。大きな旅館やホテルであると、国や県の様々な支援を受けられて、結構観光プロモーションなどにも参加されているところが多いかと思うが、県内には小さな宿もかなりある。今後、オリンピックに向けて大きな旅館やホテルだけでは宿泊施設が足りなくなるという話も出ている中で、小さなところから整備を少しずつ整えていただけるような支援があるといいと思う。私どもの旅館でもワイン会やワインセミナー、首都圏からのお客様向けに古民家のツアーなどを建築士と一緒に

行っており、こうした地道な活動を続けている小さなところも結構あると思う。こうした1つ1つを結び付けていただき大きな力になっていけるような観光がもう少し整えばいいのかなという思いはあるので、観光部や他部署と協力しながら、県のほうで1つ1つをつなげるような仕事に少し協力をさせていただきたいと思う。

(委員)

私は県立大学に観光コースを作るための組織を改革するための責任者の一人であり、県の産業活性化計画なども作成にも関わったので、私も責任を負わなければいけない計画だと思っている。これから申し上げることはあとできちんと文書にして提出するので、ポイントのみ申し上げる。

41ページの重点項目5にある、域限定通訳案内士の養成はいよいよスタートところで想定をはるかに上回る募集がきている。このスケジュール表では、前期で終わってしまう、実は大切なのは下半期である。理由として、九州の地域限定通訳案内士を見てきたところ、認定はしているが、そこでおしまいであり、その結果、実はあまり使われていない。使っていただくためにも需要と供給をマッチングさせるようなプラットフォームを作っていく必要があると思う。具体的には人材派遣会社も中に入れた。実際に地域限定通訳案内士を必要とする旅館や観光施設等と地域限定案内士をつないでいくような施設をこの下半期に実験的に作っていく必要があると思う。それが作れると恐らく日本で最先端の制度になるのではないかと思う。

続いて38ページについて、委員からも意見があったが、おもてなしは精神的な問題だけではない。施設やサイン計画のユニバーサルデザイン化、これがとても重要である。しかしながら現在の県のユニバーサルデザイン計画は県の施設だけに限定されている。県と関係施設を、例えばピクトグラムも統一しなければ使われない。さらに静岡や神奈川など、隣県との調整も必要となると思う。ちなみに本県は現在、セレオと山交と県庁とトイレのマークが違うのはご存知であるか。外国人向けには非常に分かりづらいと思う。

続いて39ページのMICEの誘致推進について、5年前から山梨県では富士北麓に国際交流ゾーンを作ろうということやってきたが、北麓の意見が合っていない。さらに箱物を造れという要求も出ている。そういうことであれば、北麓は止めて八ヶ岳山麓には会議施設もあるので、そういうところにMICEの拠点施設、国際交流の拠点施設があればいいと思っている。

最後に45ページについて、山梨県の農産物は非常に多岐に富んでいて面白いが、気候の変動とともに主産地が北や南に移動したりしている。このため、農産物の種類そのものだけでは非常に不安定だと思う。例えば長野が真似をできないようにするためには植物ではないものを加味するなど、山梨県オリジナルのものとしていかなければと思う。その1つとして、中国やほかの地域で非常に頻繁に使われているのは温泉水である。例えば温泉水は場所によって全く違うので、その温泉水を使った養魚の生産、これだけで温泉毎に名前の違う魚を作ることができる。さらに山梨県は温泉から実は山塩がたくさん採れる。山塩は高級てんぷら屋にしかないような高級ブランドである。これも温泉水の種類だけ、ありとあらゆる種類の山塩を作ることができる。会津などでは非常に大きな施設を造り、今次々に山塩を作っている最中である。従って、新しい植物の開発、動物の開発、それに加味する非植物、つまり鉱物を、ここでしか採れない鉱物を付け足すことにより、他の町には移転できないものを作れるのではないかと思っている。ぜひその分野の研究をしてもら

いたい。

(委員)

森林関係で山梨県はFSC認定材で、全国を見渡してもトップだと私は思う。世界でもこの木材については世界の認証材の中でというぐらいになっている。現在、東京オリンピックに向けて、会場にFSC認証材を使うということで話題になっている話がすごい。これを聞いた時に、山梨がこの材を持っているというだけでも心強く感じるわけであるが、この際積極的にオリンピックに山梨材を使っただけでなく努力をしていただき、山梨の森林林業がこれだけの豊富な森林県であるだけに、活性化していくようなきっかけづくりをぜひ作っていただきたい。大きな本体だけの建設ではなく、例えば椅子やベンチなどに対しても、森林県山梨県のチャンスだろうと思うだけに、ぜひ努力をお願いしたい。

続いて、この部会は地域産業元気部会というだけに、まさに山梨県の活力をみんなで見直さなければならないところへ来ており、また県もそういう努力をしながらこういう部会を持っている。まさに商工農林、あるいは観光、これがやっぱり元気付いていくことがこれからの山梨の活力につながっていくということを抽象的に思う。私は県の皆さんが努力をしてこれだけのビジョンを作っていただいているわけですが、そのことが県民やそれぞれの地域にどのぐらい浸透しているのかということについて、行政で町を預かる立場としてもそういう点での何というか、意思の疎通がないように感じる。そんなことを県でしていたのかとか、そんな制度があるのかというようなことを我々が往々にして感じるだけに、もう少しこのダイナミックやまなし総合計画を地域毎に、ブロック毎に、そして地域産業部会におろしていきながら、それぞれの地域の声を聞いて、より細かい政策の実現が必要じゃないかなということを感じる。例えば郡内地域と峡南地域は全く違うだけに、そういう政策の展開というのが必要で、この地域ならこういう産業がもっと育つのではないかと、この地域ならこういうことがやっつけられるのではということはあるはずだけに、そういう点で私は県の皆さんが一方で苦労しながら、そのことが地域やそれぞれの業種の方にも浸透していかないというのが1つのネックな課題はないかと思う。全ての計画にわたり、そのように感じるわけが、そういう努力をもう少し突っ込んでしていただけたらと思う。同じ観光でも山梨県が素晴らしい観光資源を持っていながら、郡内の観光、峡南の観光、南アルプスの観光あるいは八ヶ岳の観光という点では違う部分がある中で、総合的なことを考えた時にそういう感じがする。もう少し県の計画を下へおろしながら、地域の内容を吸い上げていただければ、様々な点について違ってくるのでそういう要望をする。

(委員)

農産物の桃、ブドウ、スモモは、全国一番であり、すべてが名品であることから、これを基本にさらに伸ばしていきたいと思う。そして何といたっても物を作っても販売するルートが中々難しいわけで、6次産業化についても行政とともに取り組んでいきたいと思う。

(委員)

42ページの農産物需要・販路の拡大という点については、国内外ということで、国外のほうに目を向けている点もあると思うが、国内のほうで、特に地元の農産物生産者と、それからそれを利用する消費者、またホテル関係の方たちとのマッチングをちょっと開いて

もらいたいと思う。市場などいろいろな場所に農産物を出荷するのもいいが、地元産の野菜とかを使いたいという意見が結構ある。その点で、生産者のほうでも必要とされているものが何か漠然としていて何を作ってよいかわからないので、今まであるような作りやすいジャガイモなどこれまで作ったことのあるものばかりの生産となっている。地元産の農産物に対し、地元で消費してくれる方が求めているものがわかりにくいので、ホテルのシェフや地元レストランの方々と生産者とを結び付けるようなことを県のほうでやっていただけたらよい。またその販路拡大という面でもいいので、そういう点も考えていただきたい。

続いて、38ページの観光の「おもてなし」について、公衆トイレの整備や管理という点で、実際に地元富士吉田市では、構成資産の部分で神社などのトイレ等が充実していないと思う。トイレは、私たちが旅行に行った時とかに気になるが、トイレがきれいだと、またここに来てみようかというようなことにつながると思うので、そういった点を充実してもらいたいと思う。

(委員)

このアクションプランで、実施主体が県、国、市町村、民間とあるが、県だけではこの計画というのは成り立たないので、例えば新たなユネスコエコパーク登録って、秩父多摩甲斐国立公園とあり、恐らく詳しいこの計画にはあると思うが、どこの地域で、どこの市町村と絡んでいるのかといったもの簡単に載せてもらえばイメージがわくと思う。地域との密接な関係でないと成り立たないと思うので、その辺が分かればイメージが出ると思う。

(委員)

甲府商工会議所に一番関係の深い148ページの「甲府城南側エリアの整備計画について」要望をしたい。

先日イオンの新たな増床計画が発表され、県もそれは容認すると。甲府の商店街連盟や甲府商工会議所などでも、まあ時代の流れの中で容認せざるを得ないという立場になると思うが、商工会議所では以前から甲府の中心商店街、非常に寂れている中で何とかしなければいけないということで、甲府駅で降りた人がお城からお城の南側を経て中心商店街へ人が流れていくような、そういう回遊性のあるものを造らなければいけないということで、なかなか難しいものであるが一番大きいのは天守閣の話で、お城の南側の、いわゆるお城フロントの整備については、先ほど県からも説明があったように市と共同で新たな整備計画を提示されたわけである。

中心になるのは税務署の跡地、県民会館の跡地など、公共的なものを利用した整備ということになると思うが、商工会議所の立場から言うとそれだけではちょっと不十分である。民間、いわゆる民有地をもかなり活用していかないと、中心市街地までつながっていかないと感じている。民間であの一带の商売をされている方は商売も非常に苦しいということで、行政で買ってくれるなら売ってもいいというか、むしろ買ってもらいたいという業者も多数いるとも聞いている。県のそういった計画にプラスして民間の民有地も活用するというような方向で検討をしていただければと思う。商工会議所の会員業者などでもそれに協力する用意があるということを行っているところもあるので、ぜひその辺も今後しっかりと打ち合わせをして協議をさせていただきたいと思っている。

(委員)

皆さんご承知のように、農家が非常に不安定で大変な状況であり、どうしたら安定した農業経営がどうしたら図れるかと課題である。これまで山梨県においては、先程の委員のお話にも出たように、果樹は桃、ブドウ、スモモ、生産量日本一と聞いているが、現在は皆さん方ご承知のように人口減少、また少子高齢化というふうな大きな転機に来ていると私は思っている。本県の基幹産業の一つである「農業」を将来的にわたって持続的に発展、成長させていくには、農地の多面的な機能を維持し、規模の大小に関わらず安定した農業が図れるよう新たな品目また品種等を開発していただき、また県内外、外国への輸出も視野に入れていきたいというふうなお話もされているので、ぜひその点につきまして山梨県の農業につきましていろいろと皆さん方のお力をお借りして、私も農業会議としてがんばっていききたいと思っている。

先ほど委員からもお話が出た、耕作放棄地については、山梨県が全国で2番目に耕作放棄地が多いということも聞いている。山梨県においても、農地中間管理機構を取り入れていただき、多少、遊休農地は減ってきていると思っているが、高齢化、また中山間地域が多くあるわけで、これが遊休農地として多くなると、先ほど鳥獣害の点もお話もあったが、山から里におりてきて、害もかなり出てきてしまう。ぜひその点についてもいろいろとお願いを申し上げたい。

(2) その他

総合計画審議会の今年度の審議スケジュールについて、事務局から説明した。

8 追加意見

部会后、提出された意見は次のとおり。

(委員)

ダイナミックアクション 農政部

重点項目1 具体的な取組内容 富士の国やまなし逸品農産物取扱店舗の拡大

生産者と地域取扱店舗(ホテル・レストランなど)とのマッチングを、今年度石和で試験的に取り組んでいると伺ったが、できれば各農務事務所ごとに普及センターで生産者(野菜協議会や組合など)をある程度把握していると思うので、中に入っていたいただき地元ホテル・レストランなど取り扱いたいお店とお互いに意見交換できる場所と機会を設定していただきたいと思う。生産可能なもの、必要としている農産物が把握できることで、地域ごとに特色ある農産物が確立され地産地消、ブランド化にもつながっていくのではないかと思う。

重点項目3 新規就農を加速化させる担い手対策の推進

取り組み内容については様々な支援がおこなわれているので、市場出荷などのほかに、生産者と地域店舗のマッチングで農産物が確実に販売でき、一定の収入が確保できるようになると新規就農者などの若い人たちも魅力をもって参入してくれるのではないかと思う。

重点項目4 農業の6次産業化と農村の活性化の推進

農業者（個人）が6次産業に取り組むには結構労力が必要で、かなり厳しい面もあると思うので、地域で協力してくれるお店（技術面・販売などが確立されている）を募るなどしてお互いに協力して商品開発していくことで地域全体が活性化していくのではないかと思います。

今回、いろいろな面で普及センターが大きな役割を果たすことと思うが、以前国の方針で各地域の普及センター支所が廃止され、富士・東部地域も生産者への対応に時間がかかるなどかなり不便な状態が続いた。他の地域でも同じようなことがあったのではないかと思います。今年度組織が変わり、岳麓試験地が試験と普及面もカバーして下さるようになり対応も早くなったが、それでもまだ人数的にも不足していると感じる点が多いので、地域農業の活性化につなげるためにも 職員の人数を増やしていただくことは可能か。

（委員）

「ダイナミック・アクション2016」の観光部の重点項目2 おもてなしの推進の具体的な取組内容に、以下の項目の加筆を提案する。

ユニバーサルデザインの統一・促進に向けた、産官学連携によるユニバーサルデザイン促進協議会設置の検討

内容

具体的な取り組みとして、「ユニバーサルデザイン(UD)の推進」を明文化することが必要だと考える。例えば、外国人観光客が安心して観光するために多言語化は重要である。しかし現在山梨県では、東南アジアからの観光客が急増しているため、多言語化には限界がある。そこで、外国人はもちろん、日本人にとっても分かりやすいUDピクトグラム(絵記号)の活用などが重要になる。しかしピクトグラムの活用にあたっては、県内外の自治体・企業・団体・教育機関との連携が極めて大切となる。なぜならピクトグラムのデザインの統一が必要不可欠なためである。例えば避難所ですら以下の図1、図2のように、様々なピクトグラムが存在している。そこで、観光客が理解しやすく、また安心感を持ってもらうために、統一されたピクトグラムによるUDの推進が重要となる。以上は、現在日本政府も、オリンピック対策や防災対策として推進しており、本県でも急ぎ対策を進めていく必要があると考えている。

ユニバーサルデザイン促進協議会は、山梨県立大学を核に県内及び隣県の産官学で構成する。具体的な取り組みとして、使用されているピクトグラムの調査を行い、誰もがわかりやすいピクトグラム案の作成を行う。また、調査結果やピクトグラム案を元に、内閣府に政策提案を行うことで、東京オリンピック・パラリンピックに向けてより広い範囲で、ユニバーサルデザインを推進できるのではないかと考えている。

(図1)



(図2)



(委員)

下記の3件を提案する。

1 地域限定特例通訳案内士の活用のための制度の企画検討

「ダイナミック・アクション2016」の観光部重点項目5 インバウンド観光の促進」の  
具体的取り組み内容 に対する下記原案から修正案への加筆修正。

(1) 原案：「地域限定特例通訳案内士養成研修の実施」

(2) 修正案：「地域限定特例通訳案内士養成研修の実施と活用のための制度の企画検討」

(提案理由)

本県で実施する「地域限定特例通訳案内士養成研修」は、想定を大きく超える応募者があり、また他県関係者の関心も極めて高い。したがってオリンピックに向けて効果的に制度を発展させていくことができれば、本県での大きな経済波及効果が見込まれるのみならず、我が国における小規模県での先進モデルとして、高い価値を生み出す可能性も極めて高い。しかし以上を実現するためには、単に同案内士を研修・認定するのみではなく、その活用のための制度立案が必要不可欠となる。右の点は、他県での効果的実施例はない。そこで他県に先駆け、以下の点の検討を行うべきと考え、上記1を提案。

(1) 同案内士の認定後の現実的活用を促進するため、産学官でのネットワーク構築に向けた制度を企画・検討する。

(2) 通訳案内士(国の制度)、地域限定特例通訳案内士(県の制度)等を一体化させ、山梨県内での相互協力・共同研修会の実施、ワンストップでの情報公開の方法を検討する。

(3) 今後の人口対策の一環として、「地域限定特例通訳案内士養成研修」の県内大学でのカリキュラム化を促進し、若者への広報と研修参加を奨励する。

2 甲府城南側エリア整備実施計画の官民連携と民活の積極的検討

「ダイナミック・アクション2016」の県土整備部重点項目2 甲府南口周辺地域の再整備の推進の具体的取り組み内容 に対する下記原案から修正案への加筆修正。

(1) 原案：「甲府城南側エリア整備実施計画の検討」

(2) 修正案：「甲府城南側エリア整備実施計画の官民連携による検討」

(提案理由)

甲府城南側エリア整備実施計画については、甲府商工会議所などが、南側中心商店街を含む広域での独創的な開発計画を提案している。特に同エリアの再開発にあっては、民間企業との連携(民活)が必要不可欠となっている。また県内では、甲府北口での株式会社タンザワによる甲州夢小路の開発などの成功例が存在する。

したがって同南側エリア整備実施計画の策定にあたっては、単に山梨県と甲府市の共同策定のみならず、甲府商工会議所案も積極的に取り込み、観光関係の民間企業による民活を公募し検討することが望まれる。

3 富士北麓などでの国際会議(国際交流)ゾーンの検討

「ダイナミック・アクション2016」の観光部重点項目3 戦略的な観光プロモーションの実施」(39頁)の具体的取り組み内容 に対する加筆修正。

( 1 ) 原案：「なし」

( 2 ) 追加案：「 富士北麓などでの国際会議（国際交流）ゾーンの検討」

( 提案理由 )

「 冬の観光の強化、MICEの誘致促進」と関連するが、富士北麓地域や八ヶ岳山麓での国際会議誘致のための重点ゾーン設定による地域振興策を再検討すべきである。平成22年に実施された「富士北麓国際交流ゾーン構想策定委員会」は、報告を作成したが実施に至らず終了した。しかしその後の富士山の世界文化遺産登録、清里キープ協会での国際会議場の建設、県内インバウンド観光の急成長もあり、状況は大きく変化しつつある。そこで同案を再検討すべきと考える。